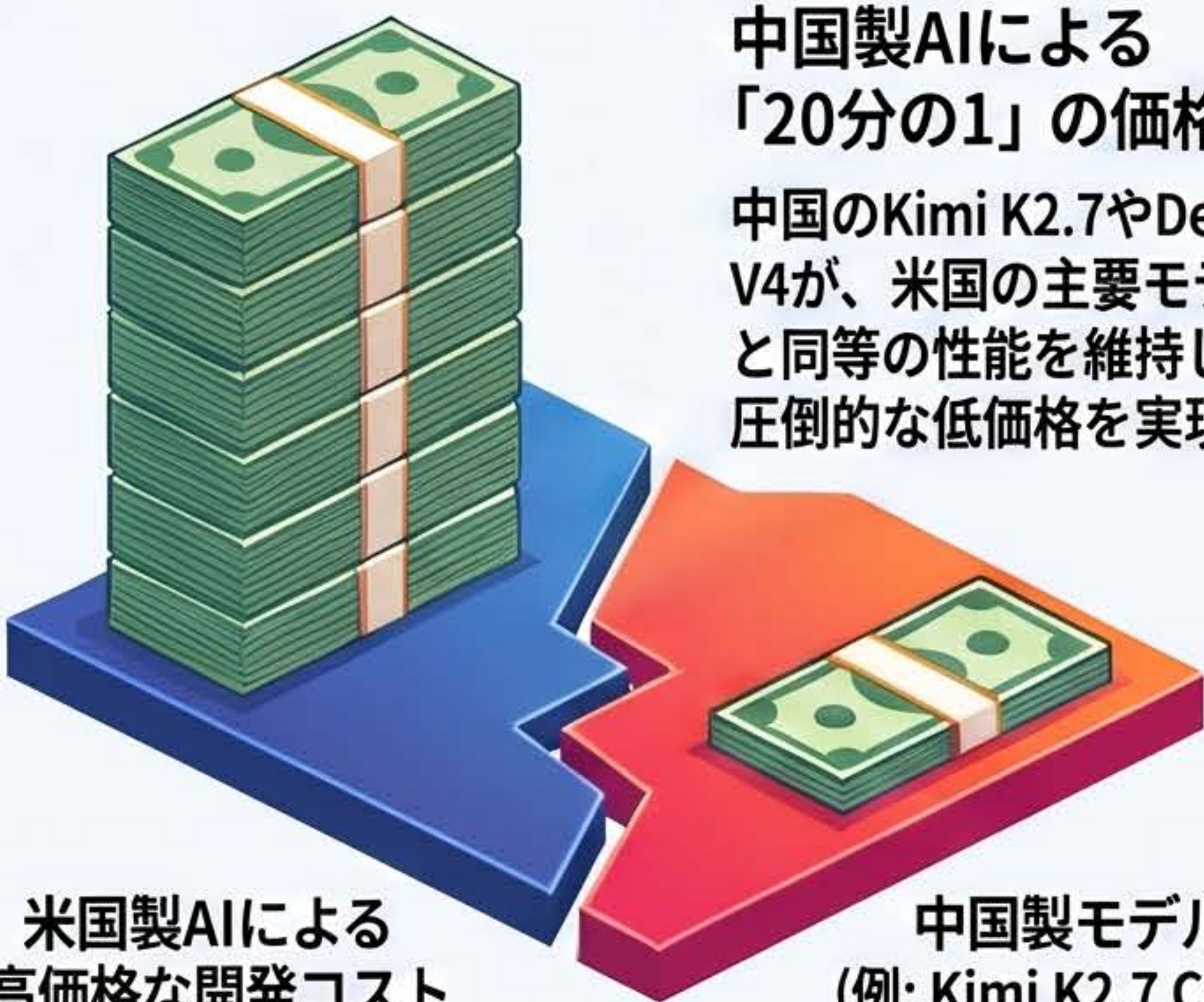


2026年 AI覇権の地殻変動：日本の「フィジカルAI」戦略への転換

知能のコモディティ化するソフトウェアAI市場から、日本の製造業の強みを活かした「フィジカルAI」戦略への転換を解説。

ソフトウェアAIの「底辺への競争」と米中の分断

米国製フロンティアモデル
(例：Claude Fable 5, GPT-5.5)



中国製AIによる
「20分の1」の価格破壊
中国のKimi K2.7やDeepSeek V4が、米国の主要モデルと同等の性能を維持しつつ圧倒的な低価格を実現。

中国製モデル
(例: Kimi K2.7 Code)

API価格差 (100万トークンあたり)

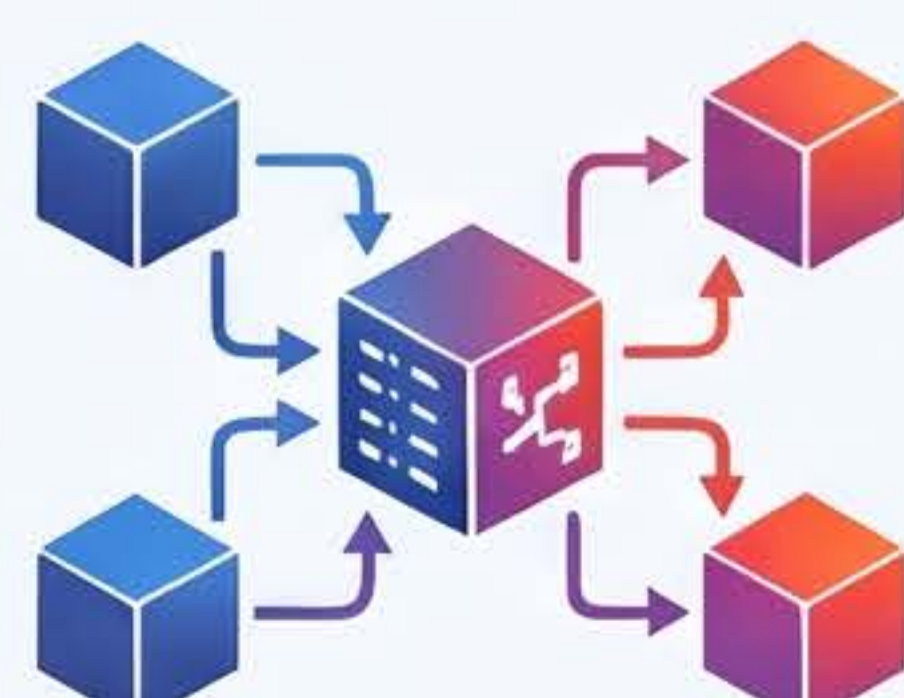
	入力	出力
Claude Fable 5 (米国)	\$10.00	\$50.00
GPT-5.5 (米国)	\$5.00	\$30.00
Kimi K2.7 Code (中国)	\$0.95	\$4.00

米国企業の「静かなる反乱」



Coinbase等の米先端企業が、コスト削減と供給不安から自社基盤を中国製モデルへ次々切り替え。

トークン・ユニットエコノミクスへの移行

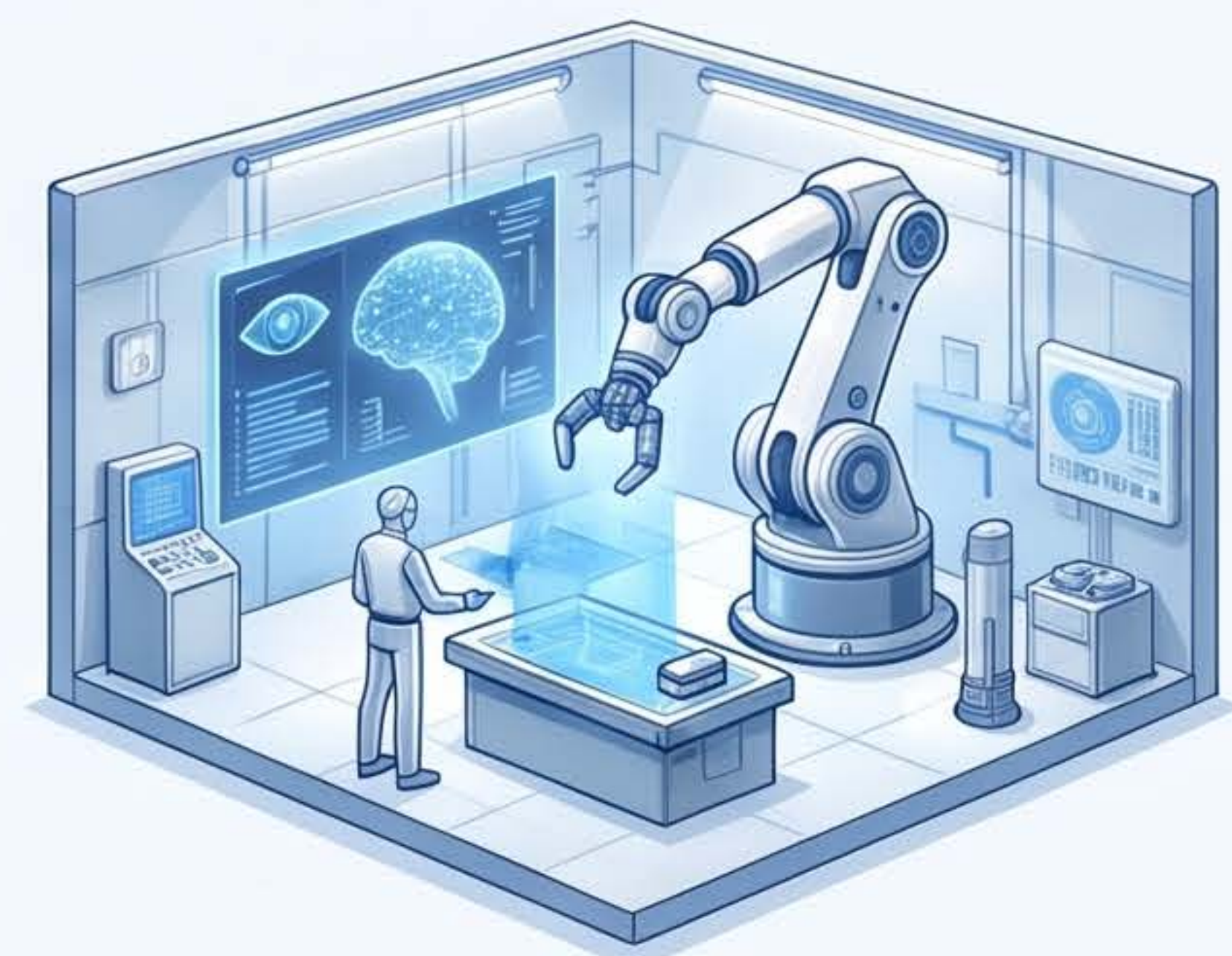


精度だけでなくROIが最重視され、動的ルーティング導入によりAI支出の50%削減が可能に。

日本の勝機：フィジカルAIとソブリン基盤

「VLAモデル」への戦略的ピボット

視覚と言語を物理的な動作 (Action) に変換するVLAモデルが、製造業の現場を革新。



日本独自の「著作権法 第30条の4」



学習データの利用に寛容な法環境が、高品質なモデル蓄留と国産AI開発の強力な武器となる。

製造現場の「暗黙知」を資産化



日本の製造業の強みを活かし、フィジカルAIで独自の優位性を構築。